



©新日住金文化財団

アメリカの至宝、歴史を創る男たち！

# JUILLIARD STRING QUARTET

ジュリアード弦楽四重奏団

2013. 6. 9日 | 松江市総合文化センター プラバホール  
開演15:00 (開場14:30)

## PROGRAM

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第21番 ニ長調「ロシア王四重奏曲第1番」 K.575 / ヤナーチェク：弦楽四重奏曲 第1番「クロイツェル・ソナタ」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第16番 ヘ長調 作品135

\*都合により、一部曲目が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

【S席】一般6,000円/学生3,000円 【A席】一般5,400円/学生2,700円 【B席】一般4,800円/学生2,400円 【C席】一般2,400円/学生1,200円

全席指定 1階B・C席と2階A・C席は補助椅子です。

個別発売4月7日(日) 午前10時より下記プレイガイドにて発売開始！

プレイガイド 各プレイガイドとも、プラバと同じように座席の画面を見て、チケットの購入が出来ます。

《松江橋北》島島根県民会館チケットコーナー (0852) 22-5556 / 井上楽器店 (0852) 21-2918

《松江橋南》プラバホール (0852) 27-6000 / タカキ楽器店 (0852) 21-4509

今井書店グループセンター店 STUDIO WONDER (0852) 20-8686

《出雲》今井書店出雲店 (0853) 22-8181 / 大島屋楽器店 (0853) 63-3016

《米子》米子しんまち天満屋4階チケットコーナー (0859) 35-1166 / らばん (0859) 34-5767

※プラバでは電話での購入も受け付けます(発売初日に限り午後1時から)。ただしプラバ窓口にお越しの方を優先させていただきます。  
※プレイガイド、電話での購入いずれの場合もキャンセルは出来ません。

※障がい者の方とその介助者は、1割引となります。チケット購入時に手帳をご提示下さい。※未就学児の入場はご遠慮いただくため、おやご室と託児室があります。但し、託児は1週間前までにプラバホールまでご予約下さい。(2歳児～小学2年生・無料)

●再生紙を使用しています。●環境にやさしい大豆インキを使用しております。

申し込み・問い合わせ・電話受付先

松江市総合文化センター《プラバホール》

松江市西津田6-5-44 TEL0852-27-6000 FAX0852-26-0094

E-Mail:plover@web-sanin.co.jp URL:http://www.web-sanin.co.jp/matsue/plover/

◆公演終了後、プラバホール前より臨時バスが発車します。

◆松江市総合文化センターの有料駐車場をご利用の方は、駐車券を認証機に通し、割引サービスをお受けください。なお、台数に限りがございますので、公演時はできるだけ公共交通機関をご利用下さい。

※近隣店舗の駐車場の利用は固くお断りします。

主催：松江市・松江市教育委員会・(財)松江市教育文化振興事業団(プラバホール)

共催：NPO法人松江音楽協会



## プログラムの聴きどころ

サミュエル・ローズ (ヴィオラ/ジュリアード弦楽四重奏団)

私たちは、今回、松江・プラバホールの演奏会で、3つの傑作を演奏プログラムとして取り上げます。

プログラムの初めのモーツァルトの作品は、彼が作曲した最後の3曲の弦楽四重奏曲の1曲目の作品で、モーツァルトは、アマチュアのチェリストでもあったフロイゼン王、フリードリッヒ・ヴィルヘルム2世に献呈したものです。そのため、他のモーツァルトの弦楽四重奏曲に比べて、チェロが、メロディーを奏する箇所が多々あり、曲全体を通して、“テノール”として主旋律を奏する役割をしています。音楽的にもそれを生かすために、他の楽器も役割を代えなくてはなりません。ヴィオラは、“バス”の旋律、2台のヴァイオリンは中声部の旋律を担当します。第3楽章のトリオは良い例です。私自身は、特に第2楽章が好きで、アンダンテはモーツァルトのオペラのアンサンブルのようです。作品の性格、そして、これが取って、モーツァルトがロマンチックな愛を表現する時に使ったイ長調で書かれていることから、この作品は、第1ヴァイオリンとチェロによる愛のデュエットの響きがします。私の1番好きな瞬間は、冒頭の後すぐのフレーズで、4台の楽器の会話が始まり、それがメロディーになっていくところです。第1ヴァイオリンとチェロは幸せで満たされた感じであり、第2ヴァイオリンは少し気難しく、ヴィオラは困っているようで、音楽は、物憂げな方向に進み、その後を、また再び最初の“恋人(第1ヴァイオリンとチェロ)”が引き継いで、順風な航海に出ていきます。

ヤナーチェクは、独特な音楽の声を持っています。村上春樹氏の愛読者なら、彼の作品の“1Q84”で重要な役割を果たすヤナーチェクのシンフォニエッタを聞いて、独特な声というものは良くお分りになっているでしょう。今日、演奏するこの弦楽四重奏曲の副題は、“クロイツェル・ソナタ”で、ベートーヴェンの“クロイツェル・ソナタ”に刺激されたトルストイの小説からインスピレーションを得たものです。この作品は、トルストイの作品の意図を表現したものではありませんが、登場人物への厳しい批判と感情を表現しています。妻の憂鬱、夫の嫉妬心、執着心が、非常に鮮やかに表現され、対比されています。曲の最後で、内側からこみあげてきたものが爆発し、最も怒りに満ちたクライマックスを曲にもたらします。聴く人は、夫が暴走列車に乗って猪突猛進に妻に向かっていく様子、彼の暴力、彼の軽はずみな行動によって生まれるその悲しい結末を聴くでしょう。この感情的な衝撃は特に大きく、演奏する者にとってはその衝撃によって投げ出されないように集中し続けることが大変難しい作品です。

ベートーヴェンの作品135の弦楽四重奏曲は、後期の弦楽四重奏曲の中の1番最後の曲で、ベートーヴェンの聴覚がかなり失われた頃の作品です。従って、この曲は、彼の内なる人生の回顧であり、彼の技術と表現力の究極の完成品です。この曲で顕著に表れる作品の性格は“ユーモア”です。第1、第2、第4楽章では、そのユーモアの性質を違った形で表現しています。一方、対照的なのは、緩徐楽章(第3楽章)で、これはこの世に存在する作品の中でも、最も深淵なものになっています。

また、最終楽章(第4楽章)は、ある特別な物語に触発されてつくられました。この作品を委嘱した商人、ヨハン・ヴォルフマイヤーは、この作品のお披露目のコンサートを企画しました。しかし、経済的な困難に陥り、ベートーヴェンに、「そうしなければなりませんか? (“muss es sein?”)」と支払いの免除を懇願に行きます。対し、ベートーヴェンは拳を振り、怒りを爆発させ、「そう、そうしなければならぬ! (“ja, ja, es muss sein!”)」と一蹴します。皮肉なことにベートーヴェンはこの事件に影響され、短いカノンを作曲した際、楽譜に、“ja, ja, es muss sein!”と書きました。そして、最終楽章を「ようやくついた決心: そうしなければなりませんか? そうしなければならぬ!」と記します。聴く人は、“そうしなければなりませんか?”という見せかけの深刻さと、そして、“そうしなければならぬ!”という感情の吐露を聴くことでしょう。

# JUILLIARD STRING QUARTET

1946年に米国・ニューヨークの名門ジュリアード音楽院の教授によって結成。

その明快な構成力、音色の美しさ、

完璧なアンサンブル、卓抜した統一感のある演奏で、

長年にわたり米国の室内楽の象徴として世界に君臨している。



Joseph Lin

### ジョセフ・リン (ヴァイオリン)

1978年メンフィス生まれの台湾系アメリカ人。ジュリアード音楽院ブレ・カレッジを経て2000年にハーバード大学卒業。コンクール受賞歴多数。フォルモサ・カルテットの創立メンバー。ソリスト、室内楽奏者としての演奏活動の傍ら、2007-2011年コーネル大学の助教授を務めた。2011年ジュリアード弦楽四重奏団の歴代4人目の第1ヴァイオリン奏者に就任するとともに同音楽院の教授となる。



Ronald Copes

### ロナルド・コープス (ヴァイオリン)

アーカンソー出身。1997年より第2ヴァイオリン奏者となる。オーペリン音楽院、ミシガン大学で学ぶ。82年から90年まではロスアンジェルス・ピアノ四重奏団に、91年から97年まではダンスミュージア・ピアノ四重奏団で活躍。77年から97年まで、カリフォルニア大学でヴァイオリンの教授を務めた。アメリカ、ヨーロッパ各地でリサイタルも行なっている。



Samuel Rhodes

### サミュエル・ローズ (ヴィオラ)

プリンストン大学で、ロジャー・セッションズ、アール・キムに作曲を学ぶ。1969年からの最古参のメンバーとして、またジュリアード音楽院の教授として44回目のシーズンを迎え、多大な尊敬を集めているが、2013年7月をもって、退団を表明。今回の日本ツアーが、彼がヴィオラを務める最後のツアーとなる。ソロ奏者としても活動しておりミルトン・バビットとアーサー・ワイズバーグの無伴奏ヴィオラ作品の世界初演を行なった。



Joel Krosnick

### ジョエル・クロスニック (チェロ)

コネティカット出身。1974年からメンバーとして活躍。ローズとともにジュリアード弦楽四重奏団を牽引している。また、演奏家として、教育者として幅広い活動を行なっている。アメリカ、ヨーロッパ各地でリサイタルを行っており、特に現代作品の演奏に意欲的である。

©Steve J. Steigman

## 臨時バス・駐車場のご案内

◆公演終了後、プラバホール前より臨時バスが発車します。

橋北 プラバホール前→作橋→朝日町→天神町→松江大橋→県民会館→北堀町→石橋町→鳥根大学→川津終点

橋南 プラバホール前→松江駅→津田小入口→合庁前→古志原→県短前→乃木駅前→卸団地→県立美術館前

◆松江市総合文化センターの有料駐車場をご利用の方は、駐車券を認証機に通し、割引サービスをお受けください。なお、台数に限りがございますので、公演時はできるだけ公共交通機関をご利用下さい。

※近隣店舗の駐車場の利用は固くお断りします。



## 第28回松江プラバ音楽祭次回公演

ジャズはもちろん、国内外の著名なオーケストラに協奏曲のソリストとして登場し、大好評!  
こんな「自由」が欲しかった!



究極のソフィスティケート

おそね まこと

小曾根 真

ピアノ・リサイタル

2013年 9月14日(日) 開演15:00

|                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| [S席]<br>一般5,500円/学生2,700円 | [A席]<br>一般4,900円/学生2,400円 |
| [B席]<br>一般4,400円/学生2,200円 | [C席]<br>一般2,200円/学生1,100円 |

個別発売 7月14日(日)午前10時より

お問い合わせ

## 松江市総合文化センター《プラバホール》

松江市西津田6-5-44 TEL0852-27-6000 FAX0852-26-0094

E-Mail: plover@web-sanin.co.jp URL: http://www.web-sanin.co.jp/matsue/plover/